



平成29年3月期 第3四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

平成29年2月2日

上場会社名 **小野薬品工業株式会社** 上場取引所 東
 コード番号 4528 URL <http://www.ono.co.jp/>
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 相良 暁
 問合せ先責任者（役職名） 執行役員広報部長（氏名） 谷 幸雄 (TEL) (06) 6263-5670
 四半期報告書提出予定日 平成29年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満四捨五入)

1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績（平成28年4月1日～平成28年12月31日）

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		四半期利益		親会社の所有者に 帰属する四半期利益		四半期包括利益 合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	188,845	68.0	53,303	138.8	56,193	123.8	42,581	120.8	42,472	121.4	53,225	95.6
28年3月期第3四半期	112,419	4.8	22,324	35.5	25,112	26.8	19,283	21.8	19,181	22.1	27,208	△13.0
	基本的1株当たり 四半期利益		希薄化後1株当たり 四半期利益									
	円 銭		円 銭									
29年3月期第3四半期	80.13		80.13									
28年3月期第3四半期	36.19		36.19									

(注) 当社は、平成28年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しました。「基本的1株当たり四半期利益」および「希薄化後1株当たり四半期利益」につきましては、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しています。

(2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率
	百万円	百万円	百万円	%
29年3月期第3四半期	583,405	509,342	504,370	86.5
28年3月期	540,450	476,255	471,393	87.2

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	90.00	—	90.00	180.00
29年3月期	—	20.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 当社は、平成28年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しました。平成28年3月期につきましては、当該株式分割前の配当金の額を記載しています。

3. 平成29年3月期の連結業績予想（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		当期利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	240,000	49.7	68,500	124.5	70,500	111.9	52,500	108.4	52,300	109.4	98.68

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

(注) 当社は、平成28年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しました。連結業績予想の「基本的1株当たり当期利益」につきましては、当該株式分割後の株式数により算定しています。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	29年3月期3Q	589,237,500株	28年3月期	589,237,500株
② 期末自己株式数	29年3月期3Q	59,217,987株	28年3月期	59,213,137株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	29年3月期3Q	530,020,386株	28年3月期3Q	530,034,169株

(注) 当社は、平成28年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しています。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

●この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

●本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により、大きく異なる可能性があります。なお、上記業績予想に関する事項は、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更	5
3. 要約四半期連結財務諸表	6
(1) 要約四半期連結財政状態計算書	6
(2) 要約四半期連結損益計算書	8
(3) 要約四半期連結包括利益計算書	9
(4) 要約四半期連結持分変動計算書	10
(5) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(6) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(報告企業)	12
(作成の基礎)	12
(重要な会計方針)	12
(重要な会計上の見積りおよび見積りを伴う判断)	12
(表示方法の変更)	12
(配当)	13
(1株当たり利益)	13
(重要な後発事象)	14
(継続企業の前提に関する注記)	14
4. 補足情報	15
(1) 主な製品の売上収益の実績と予想	15
(2) 売上収益の内訳	15
(3) 地域別の売上収益に関する情報	15
(4) 退職給付制度の改定の影響を除いた2016年3月期第3四半期連結累計期間との業績比較	16
(5) 開発品(ON0-4538を除く)の主な進捗状況	17
(6) 開発品(ON0-4538など)の主な進捗状況	20

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期（2016年4月～12月）における業績につきましては、以下のとおりとなりました。

(単位：百万円)

	2016年3月期 第3四半期連結累計期間	2017年3月期 第3四半期連結累計期間	対前年同期 増減額	対前年同期 増減率
売上収益	112,419	188,845	76,426	68.0%
営業利益	22,324	53,303	30,979	138.8%
税引前四半期利益	25,112	56,193	31,081	123.8%
四半期利益 (親会社の所有者帰属)	19,181	42,472	23,291	121.4%

[売上収益]

売上収益は、前年同期比764億円（68.0%）増加の1,888億円となりました。

- ・2014年9月に抗PD-1モノクローナル抗体として世界に先駆けて発売しました抗悪性腫瘍剤「オプジーボ点滴静注」は、「切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌」への使用が拡大したことにより、前年同期比769億円（1,360.4%）増加の826億円となりました。また、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社からの「オプジーボ点滴静注」のロイヤルティ収入は前年同期比141億円（295.7%）増加の189億円となりました。
- ・その他の主要新製品では、2型糖尿病治療剤「グラクティブ錠」は227億円（前年同期比 10.4%減）、骨粗鬆症治療剤「リカルボン錠」は87億円（同比 1.3%減）、関節リウマチ治療剤「オレンシア皮下注」は87億円（同比 44.3%増）、抗悪性腫瘍剤投与に伴う悪心・嘔吐治療剤「イメンドカプセル」、「プロイメンド点滴静注用」は合わせて76億円（同比 3.9%増）、アルツハイマー型認知症治療剤「リバスタッチパッチ」は68億円（同比 12.1%増）、2型糖尿病治療剤「フォシーガ錠」は58億円（同比 92.2%増）となりました。また、2016年8月に新発売しました多発性骨髄腫治療剤「カイプロリス点滴静注用」の売上は11億円となりました。
- ・長期収載品は薬価改定や後発品使用促進策の影響を受け、末梢循環障害改善剤「オパルモン錠」は134億円（前年同期比 26.3%減）、気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「オノンカプセル」は48億円（同比 26.2%減）、慢性膵炎・術後逆流性食道炎治療剤「フオイパン錠」は30億円（同比 27.5%減）となりました。

[営業利益]

営業利益は、前年同期比310億円（138.8%）増加の533億円となりました。

- ・売上原価は、前年同期比203億円（67.7%）増加の503億円となりました。
- ・研究開発費は、「オプジーボ点滴静注」関連費用が増加したことに加え、前年同期には退職給付制度改定に伴う過去勤務費用の影響で人件費が減少したこともあり、前年同期比96億円（32.6%）増加の390億円となりました。
- ・販売費及び一般管理費（研究開発費を除く）は、「オプジーボ点滴静注」の営業経費や安全性情報管理に関わる経費が増加したことに加え、前年同期には退職給付制度改定に伴う過去勤務費用の影響で人件費が減少したこともあり、前年同期比148億円（48.6%）増加の452億円となりました。

[四半期利益（親会社所有者帰属）]

親会社の所有者に帰属する四半期利益は、税引前四半期利益の増加に伴い、前年同期比233億円（121.4%）増加の425億円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債、資本およびキャッシュ・フローの状況に関する分析)

(連結財政状態)

(単位：百万円)

	2016年3月期 連結会計年度末	2017年3月期 第3四半期連結会計期間末	対前連結会計年度末 増減額
資産合計	540,450	583,405	42,955
親会社の所有者に帰属する持分	471,393	504,370	32,977
親会社所有者帰属持分比率	87.2%	86.5%	—
1株当たり親会社 所有者帰属持分	889.38円	951.61円	—

資産合計は、前期末に比べ430億円増の5,834億円となりました。

流動資産は、売上債権及びその他の債権の増加などから223億円増の2,459億円となりました。

非流動資産は、その他の金融資産の増加などから207億円増の3,375億円となりました。

負債は、その他の金融負債や未払法人所得税の増加などから99億円増の741億円となりました。

親会社の所有者に帰属する持分は、利益剰余金の増加などから330億円増の5,044億円となりました。

(連結キャッシュ・フローの状況)

(単位：百万円)

	2016年3月期 第3四半期連結累計期間	2017年3月期 第3四半期連結累計期間	対前年同期 増減額
現金及び現金同等物の期首残高	104,222	110,485	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,258	37,159	31,901
投資活動によるキャッシュ・フロー	10,110	△19,427	△29,537
財務活動によるキャッシュ・フロー	△18,446	△19,699	△1,253
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△3,078	△1,968	—
現金及び現金同等物に係る 為替変動による影響額	△40	△14	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	101,105	108,503	—

当第3四半期の現金及び現金同等物の増減額は、20億円の減少となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、法人所得税等の支払額114億円などがあった一方で、税引前四半期利益562億円などがあった結果、372億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の預入による支出206億円などがあった結果、194億円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、主に配当金の支払いから197億円の支出となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2016年12月21日に開示しました2017年3月期通期の連結業績予想を、下記のとおり修正します。

2017年3月期通期連結業績予想数値の修正
(2016年4月1日～2017年3月31日)

(単位：百万円)

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	親会社の所有者に帰属する当期利益	基本的1株当たり当期利益
前回発表予想(A)	240,000	54,000	56,000	42,000	41,800	78.86円
今回修正予想(B)	240,000	68,500	70,500	52,500	52,300	98.68円
増減額(B-A)	—	14,500	14,500	10,500	10,500	
増減率(%)	—	26.9	25.9	25.0	25.1	
(ご参考)前期実績 (2016年3月期)	160,284	30,507	33,272	25,192	24,979	47.13円

(注) 当社は、平成28年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しました。

「基本的1株当たり当期利益」につきましては、前期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しています。

Merck社(米国)およびその関連会社による抗PD-1抗体製品の販売等の特許侵害に対し、特許侵害訴訟を提起するなど係争しておりましたが、2017年1月に和解し、頭金を受取ることになりましたので、訴訟費用等の関連費用を控除した額を「その他の収益」として見込むことといたしました。

以上の結果、当期の営業利益は685億円(前回予想比145億円増)、税引前利益は705億円(前回予想比145億円増)、当期利益は525億円(前回予想比105億円増)、親会社の所有者に帰属する当期利益は523億円(前回予想比105億円増)を予想しています。

なお、上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は、今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

該当事項はありません。

3. 要約四半期連結財務諸表

(1) 要約四半期連結財政状態計算書

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (2016年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2016年12月31日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	110,485	108,503
売上債権及びその他の債権	62,043	88,007
有価証券	21,583	19,584
その他の金融資産	800	800
棚卸資産	23,232	24,562
その他の流動資産	5,430	4,409
流動資産合計	223,573	245,864
非流動資産		
有形固定資産	80,094	82,151
無形資産	38,324	43,211
投資有価証券	182,396	179,335
持分法で会計処理されている投資	982	1,008
その他の金融資産	6,753	26,747
繰延税金資産	5,179	1,802
その他の非流動資産	3,149	3,286
非流動資産合計	316,877	337,541
資産合計	540,450	583,405

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2016年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2016年12月31日)
負債及び資本		
流動負債		
仕入債務及びその他の債務	31,250	31,182
借入金	328	403
その他の金融負債	3,068	7,509
未払法人所得税	6,585	10,259
引当金	1,355	1,409
その他の流動負債	9,607	11,697
流動負債合計	52,194	62,458
非流動負債		
借入金	515	631
その他の金融負債	19	10
退職給付に係る負債	4,093	3,860
引当金	30	30
繰延税金負債	885	878
長期前受収益	5,814	5,495
その他の非流動負債	643	700
非流動負債合計	12,000	11,605
負債合計	64,195	74,063
資本		
資本金	17,358	17,358
資本剰余金	17,103	17,133
自己株式	△59,358	△59,381
その他の資本の構成要素	43,307	51,138
利益剰余金	452,983	478,122
親会社の所有者に帰属する持分	471,393	504,370
非支配持分	4,862	4,972
資本合計	476,255	509,342
負債及び資本合計	540,450	583,405

(2) 要約四半期連結損益計算書

	(単位：百万円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)
売上収益	112,419	188,845
売上原価	△29,981	△50,268
売上総利益	82,438	138,577
販売費及び一般管理費	△30,391	△45,159
研究開発費	△29,400	△38,980
その他の収益	341	261
その他の費用	△664	△1,396
営業利益	22,324	53,303
金融収益	3,081	2,937
金融費用	△257	△75
持分法による投資損益	△37	27
税引前四半期利益	25,112	56,193
法人所得税	△5,829	△13,611
四半期利益	19,283	42,581
四半期利益の帰属：		
親会社の所有者	19,181	42,472
非支配持分	101	109
四半期利益	19,283	42,581
1株当たり四半期利益：		
基本的1株当たり四半期利益(円)	36.19	80.13
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	36.19	80.13

(3) 要約四半期連結包括利益計算書

	(単位：百万円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)
四半期利益	19,283	42,581
その他の包括利益：		
純損益に振り替えられることのない項目：		
その他の包括利益を通じて測定する 金融資産の公正価値の純変動	9,662	10,246
確定給付制度の再測定	△1,704	373
持分法適用会社のその他の包括利益を 通じて測定する金融資産の公正価値の 純変動に対する持分	△1	1
純損益に振り替えられることのない 項目合計	7,957	10,620
純損益にその後に振り替えられる 可能性のある項目：		
在外営業活動体の換算差額	△32	23
純損益にその後に振り替えられる 可能性のある項目合計	△32	23
その他の包括利益合計	7,925	10,643
四半期包括利益合計	27,208	53,225
四半期包括利益合計の帰属：		
親会社の所有者	27,080	53,112
非支配持分	128	113
四半期包括利益合計	27,208	53,225

(4) 要約四半期連結持分変動計算書

前第3四半期連結累計期間(自 2015年4月1日 至 2015年12月31日)

(単位:百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分						非支配持分	資本合計
	資本金	資本剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	利益剰余金	親会社の所有者に帰属する持分		
2015年4月1日現在残高	17,358	17,080	△59,308	45,756	449,690	470,575	4,638	475,213
四半期利益					19,181	19,181	101	19,283
その他の包括利益				7,899		7,899	26	7,925
四半期包括利益合計	—	—	—	7,899	19,181	27,080	128	27,208
自己株式の取得			△40			△40		△40
剰余金の配当					△19,081	△19,081	△3	△19,084
株式報酬取引		16				16		16
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替				999	△999	—		—
所有者との取引額等合計	—	16	△40	999	△20,080	△19,105	△3	△19,108
2015年12月31日現在残高	17,358	17,095	△59,348	54,654	448,791	478,550	4,763	483,313

当第3四半期連結累計期間(自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)

(単位:百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分						非支配持分	資本合計
	資本金	資本剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	利益剰余金	親会社の所有者に帰属する持分		
2016年4月1日現在残高	17,358	17,103	△59,358	43,307	452,983	471,393	4,862	476,255
四半期利益					42,472	42,472	109	42,581
その他の包括利益				10,640		10,640	4	10,643
四半期包括利益合計	—	—	—	10,640	42,472	53,112	113	53,225
自己株式の取得			△23			△23		△23
剰余金の配当					△20,142	△20,142	△3	△20,145
株式報酬取引		30				30		30
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替				△2,809	2,809	—		—
所有者との取引額等合計	—	30	△23	△2,809	△17,333	△20,135	△3	△20,138
2016年12月31日現在残高	17,358	17,133	△59,381	51,138	478,122	504,370	4,972	509,342

(5) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	25,112	56,193
減価償却費及び償却費	4,857	5,651
減損損失	1,182	736
受取利息及び受取配当金	△2,668	△2,836
支払利息	9	10
棚卸資産の増減額(△は増加)	2,959	△1,278
売上債権及びその他の債権の増減額 (△は増加)	△11,553	△25,959
仕入債務及びその他の債務の増減額 (△は減少)	1,940	6,432
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△6,013	304
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△87	—
長期前受収益の増減額(△は減少)	△526	△319
その他	△2,722	6,788
小計	12,491	45,723
利息の受取額	242	114
配当金の受取額	2,456	2,732
利息の支払額	△9	△10
法人所得税等の支払額	△9,922	△11,401
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,258	37,159
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△5,700	△12,608
無形資産の取得による支出	△5,811	△6,719
投資の取得による支出	△250	△2,437
投資の売却及び償還による収入	22,079	22,341
定期預金の預入による支出	△600	△20,600
その他	392	596
投資活動によるキャッシュ・フロー	10,110	△19,427
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△18,223	△19,347
非支配持分への配当金の支払額	△3	△3
長期借入金の返済による支出	△274	△290
短期借入金の純増減額	92	△37
自己株式の取得による支出	△39	△22
財務活動によるキャッシュ・フロー	△18,446	△19,699
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△3,078	△1,968
現金及び現金同等物の期首残高	104,222	110,485
現金及び現金同等物に係る 為替変動による影響額	△40	△14
現金及び現金同等物の四半期末残高	101,105	108,503

(6) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(報告企業)

小野薬品工業株式会社(以下、当社)は日本国の株式会社であります。当社の登記している本社および主要な事業所の住所はホームページ(URL <http://www.ono.co.jp/>)で開示しております。

当社の要約四半期連結財務諸表は、当社および子会社(以下、当社グループ)、並びに当社グループの関連会社に対する持分により構成されております。当社グループは、医療用、一般用医薬品の製造・販売を行っております。

(作成の基礎)

(1) 準拠する会計基準

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、四半期連結財務諸表規則第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件を満たすことから、同第93条の規定により、IAS第34号に準拠して作成しており、年度の連結財務諸表で要求される全ての情報を含んでおりません。要約四半期連結財務諸表は、2016年3月31日に終了した前連結会計年度の連結財務諸表と併せて利用されるべきものであります。

(2) 測定の基礎

要約四半期連結財務諸表は、公正価値で測定している金融商品などを除き、取得原価を基礎として作成しております。

(3) 機能通貨および表示通貨

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、当社の機能通貨である日本円を表示通貨としており、特に注釈のない限り、百万円未満の端数を四捨五入して表示しております。

(重要な会計方針)

当社グループの要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、前連結会計年度に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同一であります。

なお、当第3四半期連結累計期間の法人所得税は、見積年次実効税率を基に算定しております。

(重要な会計上の見積りおよび見積りを伴う判断)

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、収益および費用、資産および負債の測定に関する経営者の見積りおよび仮定を含んでおります。これらの見積りおよび仮定は過去の実績および四半期決算日において合理的であると考えられる様々な要因などを勘案した経営者の最善の判断に基づいております。しかし、その性質上、将来において、これらの見積りおよび仮定とは異なる結果となる可能性があります。

見積りおよびその基礎となる仮定は経営者により継続して見直されております。これらの見積りおよび仮定の見直しによる影響は、その見積りおよび仮定を見直した期間およびそれ以降の期間において認識しております。

当社グループの要約四半期連結財務諸表で認識する金額に重要な影響を与える見積りおよび仮定は、原則として前連結会計年度と同様であります。

(表示方法の変更)

(要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書)

前第3四半期連結累計期間において、投資活動によるキャッシュ・フローの「その他」に含めて表示しておりました「定期預金の預入による支出」は、金額的重要性が増したため、第2四半期連結累計期間より独立掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間の要約連結財務諸表の組み替えを行っております。

この結果、前第3四半期連結累計期間の要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書において投資活動によるキャッシュ・フローに表示していた「その他」△208百万円は、「定期預金の預入による支出」△600百万円、「その他」392百万円として組み替えております。

(配当)

(1) 配当金支払額

前第3四半期連結累計期間

決議日	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2015年6月26日 定時株主総会	普通株式	9,541	90	2015年3月31日	2015年6月29日
2015年11月4日 取締役会	普通株式	9,541	90	2015年9月30日	2015年12月1日

当第3四半期連結累計期間

決議日	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2016年6月29日 定時株主総会	普通株式	9,540	90	2016年3月31日	2016年6月30日
2016年11月7日 取締役会	普通株式	10,600	20	2016年9月30日	2016年12月1日

(注) 当社は、2016年4月1日を効力発生日として、普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しました。基準日が2016年3月31日以前の1株当たり配当額については、当該株式分割前の配当額を記載しています。

(2) 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

前第3四半期連結累計期間

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間

該当事項はありません。

(1株当たり利益)

(1) 基本的1株当たり四半期利益

①基本的1株当たり四半期利益

	前第3四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)
基本的1株当たり四半期利益	36.19円	80.13円

(注) 当社は、2016年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しました。「基本的1株当たり四半期利益」については、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しています。

②基本的1株当たり四半期利益の算定上の基礎

	前第3四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	19,181百万円	42,472百万円
発行済普通株式の 加重平均株式数	530,034千株	530,020千株

(2) 希薄化後1株当たり四半期利益

①希薄化後1株当たり四半期利益

	前第3四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)
希薄化後1株当たり四半期利益	36.19円	80.13円

(注) 当社は、2016年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しました。「希薄化後1株当たり四半期利益」については、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しています。

②希薄化後1株当たり四半期利益の算定上の基礎

	前第3四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	19,181百万円	42,472百万円
発行済普通株式の 加重平均株式数	530,034千株	530,020千株
新株予約権による普通株式増加数	6千株	17千株
希薄化後の 加重平均株式数	530,040千株	530,038千株

(重要な後発事象)

重要な係争事件の解決

(1) 訴訟の提起から和解に至るまでの経緯

当社およびブリストル・マイヤーズ スクイブ社(米国) (以下、BMS社)は、当社と本庶佑氏(京都大学大学院医学研究科 客員教授)との共有に係る抗PD-1抗体の用途特許および当社とBMS社との共有に係る抗PD-1抗体の物質特許を保有しており、Merck社(米国)およびその関連会社(以下、メルク社)による抗PD-1抗体製品である「キイトルーダ[®]」(一般名:ペムプロリズマブ、MK-3475)の販売等の特許侵害に対し、日本、米国、欧州等において特許侵害訴訟を提起するなど係争しておりましたが、2017年1月20日付で当社およびBMS社はメルク社と和解し、ライセンス契約を締結いたしました。

(2) 和解およびライセンス契約の主な内容

本ライセンス契約により、当社およびBMS社が保有する用途特許および物質特許が有効であることを確認した上で、メルク社の「キイトルーダ[®]」の販売を許諾すること、また、メルク社は当社およびBMS社に対して6億2500万ドルの頭金を支払い、2017年1月1日から2023年12月31日までは「キイトルーダ[®]」の全世界売上の6.5%、2024年1月1日から2026年12月31日までは「キイトルーダ[®]」の全世界売上の2.5%をロイヤルティとして支払うことで合意に至りました。なお、頭金およびロイヤルティは当社に25%、BMS社に75%の割合で分配されます。今回の和解により、メルク社の「キイトルーダ[®]」販売に関する各国の訴訟は終結することになります。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

4. 補足情報

(1) 主な製品の売上収益の実績と予想

(単位：億円)

製品名	29年3月期 第3四半期累計 実績						29年3月期 通期予想					
	累 計 実 績				前年同期比		前回予想	前回予想 からの修 正額	修正 予想	前期比		
	4～6月	7～9月	10～12月		増減額	増減率				増減額	増減率	
オブジーボ点滴静注	252	281	293	826	769	1,360.4%	1,260	△210	1,050	838	396.4%	
グラクティブ錠	77	71	79	227	△26	△10.4%	295		295	△19	△6.1%	
オパールモン錠	47	42	45	134	△48	△26.3%	175		175	△52	△22.9%	
リカルボン錠	29	27	31	87	△1	△1.3%	115		115	2	1.8%	
オレンシア皮下注	26	28	32	87	27	44.3%	115		115	35	43.5%	
イメンド/プロイメンド	25	24	27	76	3	3.9%	100		100	5	5.6%	
リバスタッチパッチ	22	21	24	68	7	12.1%	90		90	12	14.9%	
フォシーガ錠	18	18	22	58	28	92.2%	85		85	42	98.9%	
オノンカプセル	17	13	17	48	△17	△26.2%	65		65	△25	△27.4%	
オノアクト点滴静注用	14	12	17	44	△1	△3.2%	65		65	8	13.9%	
ステープラ錠	13	11	13	37	△3	△8.6%	50		50	△2	△3.2%	
オノンドライシロップ	11	8	13	31	△12	△27.3%	45		45	△11	△19.7%	
フオイパン錠	11	9	10	30	△11	△27.5%	40		40	△12	△22.4%	
キネダック錠	8	7	7	23	△10	△30.9%	30		30	△11	△26.6%	
カイプロリス点滴静注用	-	2	9	11	平成28年8月新発売		20		20	20	-	

(注) 仕切価格(出荷価格)ベースでの売上収益を開示しております。

(2) 売上収益の内訳

(単位：億円)

	28年3月期 第3四半期連結累計	29年3月期 第3四半期連結累計
製品商品	1,041	1,671
ロイヤルティ・その他の営業収益	83	218
合計	1,124	1,888

(注) 「ロイヤルティ・その他の営業収益」の中には、「オブジーボ点滴静注」のロイヤルティ収入が、前第3四半期連結累計期間に48億円、当第3四半期連結累計期間に189億円、それぞれ含まれております。

(3) 地域別の売上収益に関する情報

(単位：億円)

	28年3月期 第3四半期連結累計	29年3月期 第3四半期連結累計
日本	1,042	1,671
米州	63	194
アジア	17	21
欧州	2	3
合計	1,124	1,888

(注) 売上収益は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しております。

(4) 退職給付制度の改定の影響を除いた2016年3月期第3四半期連結累計期間との業績比較

2015年4月に退職給付制度の改定に関する労使の合意がなされたため、前第1四半期連結累計期間において、改定後の退職給付制度に基づく退職給付債務の数理計算および過去勤務費用の算定を行いました。その結果、前第1四半期連結累計期間において、退職給付制度改定に伴う過去勤務費用の影響で「売上原価」が4億円、「研究開発費」が22億円、「販売費及び一般管理費」が37億円それぞれ減少したため、「営業利益」が63億円増加しました。この影響を除いた前第3四半期連結累計期間と当第3四半期連結累計期間の業績（実績比）は以下のとおりであります。

(単位：億円)

損益の状況	2016年3月期 第3四半期 連結累計期間		2017年3月期 第3四半期 連結累計期間		
	実績	退職給付制度の 改定の影響を除 いた場合の実績	実績	前年同期 実績比	退職給付制度の改定 の影響を除いた場合 の前年同期 実績比
売上収益	1,124	1,124	1,888	68.0%	68.0%
売上原価	300	304	503	67.7%	65.3%
売上総利益	824	820	1,386	68.1%	69.0%
販売費及び一般管理費	304	340	452	48.6%	32.7%
研究開発費	294	316	390	32.6%	23.3%
営業利益	223	160	533	138.8%	232.6%
税引前四半期利益	251	188	562	123.8%	198.7%
法人所得税	58	44	136	133.5%	210.7%
四半期利益	193	144	426	120.8%	195.0%
うち、親会社の所有者に 帰属する四半期利益	192	143	425	121.4%	196.3%

(5) 開発品 (ONO-4538を除く) の主な進捗状況

平成29年1月31日現在

1. 国内開発品状況

<承認取得開発品>

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	自社*)／導入
パーサビブ静注透析用*1 (ONO-5163)/AMG-416/エテルカルセチド塩酸塩	新有効成分	二次性副甲状腺機能亢進症 ／カルシウム受容体作動作用	注射	導入 (アムジェン社)

平成29年3月期第2四半期決算発表からの変更点

※1：カルシウム受容体作動剤「パーサビブ静注透析用」は、血液透析下の二次性副甲状腺機能亢進症を適応とした製造販売承認を取得しました。

*)：共同研究により創出された化合物を含む

なお、抗がん剤において、同じ予定効能（がん腫）の場合は、最も進んでいるフェーズ（臨床ステージ）を記載しております。

<申請中開発品>

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	自社*)／導入
カイプロリス点滴静注用 (ONO-7057)/カルフィルゾミブ	用法・用量 追加	多発性骨髄腫 ／プロテアソーム阻害作用	注射	導入 (オニキス社)

*)：共同研究により創出された化合物を含む

なお、抗がん剤において、同じ予定効能（がん腫）の場合は、最も進んでいるフェーズ（臨床ステージ）を記載しております。

<臨床試験中開発品>

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	フェーズ	自社*)／導入
オレンシア点滴静注用 (ONO-4164)/BMS-188667	効能追加	若年性特発性関節炎 ／T細胞活性化抑制作用	注射	Ⅲ	導入 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社)
オレンシア点滴静注用 (ONO-4164)/BMS-188667	効能追加	ループス腎炎 ／T細胞活性化抑制作用	注射	Ⅲ	導入 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社)
オレンシア皮下注 (ONO-4164)/BMS-188667	効能追加	未治療の関節リウマチ ／T細胞活性化抑制作用	注射	Ⅲ	導入 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社)
オレンシア皮下注*2 (ONO-4164)/BMS-188667	効能追加	一次性シェーグレン症候群 ／T細胞活性化抑制作用	注射	Ⅲ	導入 (ブリistol・マイヤーズ スクイブ社)
カイプロリス点滴静注用 (ONO-7057) /カルフィルゾミブ	用法・用量 変更	多発性骨髄腫 ／プロテアソーム阻害作用	注射	Ⅲ	導入 (オニキス社)
ONO-1162 /Ivabradine	新有効成分	慢性心不全／I f チャネル阻害作用	錠	Ⅲ	導入 (セルヴィエ社)
ONO-7643 /アナモレリン	新有効成分	がん悪液質／グレリン様作用	錠	Ⅲ	導入 (ヘルシン社)
オノアクト点滴静注用 50mg/150mg (ONO-1101)	小児での 効能追加	心機能低下例における頻脈性不整脈 ／β ₁ 遮断作用（短時間作用型）	注射	Ⅱ/Ⅲ	自社

製品名／開発コード ／一般名	区分	予定効能／薬理作用	剤型	フェーズ	自社*)／導入
オノアクト点滴静注用 50mg/150mg (ONO-1101)	効能追加	心室性不整脈 ／ β_1 遮断作用 (短時間作用型)	注射	Ⅱ/Ⅲ	自社
ONO-2370 /Opicapone	新有効成分	パーキンソン病 ／長時間作用型COMT阻害作用	錠	Ⅱ	導入 (ビアル社)
ONO-5371 /メチロシン	新有効成分	褐色細胞腫／チロシン水酸化酵素阻害作用	カプセル	Ⅰ/Ⅱ	導入 (バリアント社)
ONO-7268MX1	新有効成分	肝細胞がん／ペプチドワクチン	注射	Ⅰ	導入 (オンコセラビー・サイエンス株式会社)
ONO-7268MX2	新有効成分	肝細胞がん／ペプチドワクチン	注射	Ⅰ	導入 (オンコセラビー・サイエンス株式会社)
ONO-2160/CD	新有効成分	パーキンソン病 ／レボドパプロドラッグ	錠	Ⅰ	自社
ONO-4059	新有効成分	B細胞リンパ腫 ／Bruton's tyrosine kinase (Btk) 阻害作用	カプセル	Ⅰ	自社
ONO-8577	新有効成分	過活動膀胱／膀胱平滑筋弛緩作用	錠	Ⅰ	自社
ONO-4578**3	新有効成分	固形がん／プロスタグランジン受容体 (EP4)拮抗作用	錠	Ⅰ	自社

平成29年3月期第2四半期決算発表からの変更点

※2：T細胞活性化抑制剤「オレンシア皮下注 (ONO-4164) /BMS-188667」は、一次性シェーグレン症候群を対象としたフェーズⅢ試験を開始しました。

※3：プロスタグランジン受容体 (EP4)拮抗薬「ONO-4578」は、固形がんを対象としたフェーズⅠ試験を開始しました。

***)：共同研究により創出された化合物を含む**

なお、抗がん剤において、同じ予定効能 (がん腫) の場合は、最も進んでいるフェーズ (臨床ステージ) を記載しております。

2. 国外開発品状況

＜臨床試験中開発品＞

製品名／開発コード	区分	予定効能／薬理作用	剤型	フェーズ	地域	自社 ^{*)} ／導出
ONO-4474	新有効成分	変形性関節症／Tropomyosin receptor kinase (T r k) 阻害作用	カプセル	II	欧州	自社
ONO-4059 ^{**4}	新有効成分	B細胞リンパ腫 ／Bruton's tyrosine kinase (B t k) 阻害作用	カプセル	II	欧米	導出 (ギリアド・サイエンシズ社)
ONO-8055	新有効成分	低活動膀胱／プロスタグランディン受容体 (E P 2／E P 3) 作動作用	錠	I	欧州	自社
ONO-7475 ^{**5}	新有効成分	急性白血病／Axl/Mer阻害作用	錠	I	米国	自社
ONO-7579 ^{**6}	新有効成分	固形がん／Tropomyosin receptor kinase (T r k) 阻害作用	錠	I	欧米	自社

平成29年3月期第2四半期決算発表からの変更点

※4：Bruton's tyrosine kinase (B t k) 阻害薬「ONO-4059」は、B細胞リンパ腫を対象としたフェーズII試験を開始しました。

※5：Axl/Mer阻害薬「ONO-7475」は、急性白血病を対象としたフェーズI試験を開始しました。

※6：Tropomyosin receptor kinase (T r k) 阻害薬「ONO-7579」は、固形がんを対象としたフェーズI試験を開始しました。

※TSP0 (トランスロケータープロテイン) 拮抗薬「ONO-2952」は、過敏性腸症候群を対象に開発を進めてきましたが、既存品や開発中の競合品との差異化などを総合的に勘案し、戦略上の理由から、開発を中止しました。

※プロスタグランディン受容体 (EP4) 作動薬「ONO-4232」は、急性心不全を対象に開発を進めてきましたが、今後の開発期間と開発コストなどを総合的に勘案し、戦略上の理由から、開発を中止しました。

*)：共同研究により創出された化合物を含む

なお、抗がん剤において、同じ予定効能 (がん腫) の場合は、最も進んでいるフェーズ (臨床ステージ) を記載しております。

(6) 開発品 (ONO-4538など) の主な進捗状況

平成29年1月31日現在

1. 日本、韓国、台湾の開発品状況 (ONO-4538を含むBMS提携化合物)

<承認取得開発品>

製品名／開発コード	予定効能	地域	自社*)/導入
オブジーボ点滴静注 (ONO-4538) /BMS-936558	ホジキンリンパ腫 ^{※1}	日本	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)

平成29年3月期第2四半期決算発表からの変更点

※1: 「オブジーボ点滴静注」は、日本において「再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫」を効能・効果とした製造販売承認事項一部変更承認を取得しました。

*) : 共同研究により創出された化合物を含む

なお、抗がん剤において、同じ予定効能 (がん腫) の場合は、最も進んでいるフェーズ (臨床ステージ) を記載しております。

<申請中開発品>

製品名／開発コード	予定効能	地域	自社*)/導入
オブジーボ点滴静注 (ONO-4538) /BMS-936558	非小細胞肺癌 (非扁平上皮型)	台湾	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	腎細胞がん	台湾	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	頭頸部がん	日本、台湾	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	胃がん ^{※2}	日本	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)

平成29年3月期第2四半期決算発表からの変更点

※2: 「オブジーボ点滴静注」は、日本において「治癒切除不能な進行・再発の胃がん」を効能・効果とした製造販売承認事項一部変更承認申請を行いました。

*) : 共同研究により創出された化合物を含む

なお、抗がん剤において、同じ予定効能 (がん腫) の場合は、最も進んでいるフェーズ (臨床ステージ) を記載しております。

<臨床試験中開発品>

製品名／開発コード	予定効能	フェーズ	地域	自社*) /導入
オブジーボ点滴静注 (ONO-4538) /BMS-936558	頭頸部がん	Ⅲ	韓国	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	胃がん	Ⅲ	韓国、台湾	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	食道がん	Ⅲ	日本、韓国、 台湾	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	胃食道接合部がん及び食道がん	Ⅲ	日本、韓国、 台湾	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	小細胞肺癌	Ⅲ	日本、韓国、 台湾	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	肝細胞がん	Ⅲ	日本、韓国、 台湾	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	膠芽腫	Ⅲ	日本	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	尿路上皮がん	Ⅲ	日本、韓国、 台湾	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	悪性胸膜中皮腫	Ⅲ	日本	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	卵巣がん**	Ⅲ	日本	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	固形がん (子宮頸がん、子宮体がん及び軟 部肉腫)	Ⅱ	日本	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社との共同開発)
	中枢神経系原発リンパ腫／精巣原 発リンパ腫	Ⅱ	日本	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	ウイルス陽性・陰性固形がん	I / Ⅱ	日本、韓国、 台湾	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社との共同開発)
胆道がん	I	日本	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社との共同開発)	
抗TIGIT抗体 (ONO-4686/BMS-986207)	固形がん**	I / Ⅱ	日本	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社との共同開発)
Urelumab (ONO-4481/BMS-663513)	固形がん	I	日本	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社との共同開発)
抗LAG-3抗体 (ONO-4482/BMS-986016)	固形がん	I	日本	導入 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社との共同開発)

平成29年3月期第2四半期決算発表からの変更点

※3：「オブジーボ点滴静注」は、卵巣がんを対象としたフェーズⅢ試験を開始しました。

※4：抗TIGIT抗体薬「ONO-4686/BMS-986207」は、固形がんを対象としたフェーズI / Ⅱ試験を開始しました。

***)**：共同研究により創出された化合物を含む

なお、抗がん剤において、同じ予定効能（がん腫）の場合は、最も進んでいるフェーズ（臨床ステージ）を記載しております。

2. 欧米の開発品状況 (ONO-4538)

<承認取得開発品>

製品名／開発コード	予定効能	地域	自社*)/導入
オプジーボ点滴静注 (ONO-4538) /BMS-936558	頭頸部がん**5	米国	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	ホジキンリンパ腫**6	欧州	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)

平成29年3月期第2四半期決算発表からの変更点

※5：「オプジーボ点滴静注」は、米国において「プラチナ製剤による治療中または治療後に病勢進行した再発または転移性頭頸部扁平上皮がん」を効能・効果とした製造販売承認事項一部変更承認を取得しました。

※6：「オプジーボ点滴静注」は、欧州において「自家造血幹細胞移植及びブレンツキシマブドチンによる治療後の再発または難治性古典的ホジキンリンパ腫」を効能・効果とした製造販売承認事項一部変更承認を取得しました。

*)：共同研究により創出された化合物を含む

なお、抗がん剤において、同じ予定効能（がん腫）の場合は、最も進んでいるフェーズ（臨床ステージ）を記載しております。

<申請中開発品>

製品名／開発コード	予定効能	地域	自社*)/導入
オプジーボ点滴静注 (ONO-4538) /BMS-936558	頭頸部がん	欧州	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	尿路上皮がん	欧米	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)

*)：共同研究により創出された化合物を含む

なお、抗がん剤において、同じ予定効能（がん腫）の場合は、最も進んでいるフェーズ（臨床ステージ）を記載しております。

<臨床試験中開発品>

製品名／開発コード	予定効能	フェーズ	地域	自社 [*] /導入
オブジーボ点滴静注 (ONO-4538) /BMS-936558	膠芽腫	Ⅲ	欧米	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	小細胞肺癌	Ⅲ	欧米	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	肝細胞がん	Ⅲ	欧米	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	食道がん	Ⅲ	欧米	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	多発性骨髄腫	Ⅲ	欧米	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	胃食道接合部がん及び食道がん	Ⅲ	欧米	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	胃がん	Ⅲ	欧米	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	悪性胸膜中皮腫	Ⅲ	欧米	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	Ⅱ	欧米	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	濾胞性リンパ腫	Ⅱ	欧米	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	中枢神経系原発リンパ腫／精巣原発リンパ腫	Ⅱ	欧米	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	大腸がん	I / Ⅱ	欧米	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	固形がん（トリプルネガティブ乳がん、 胃がん、膵がん、小細胞肺癌、尿路上 皮がん、卵巣がん）	I / Ⅱ	欧米	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
	ウィルス陽性・陰性固形がん	I / Ⅱ	欧米	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社との共同開発)
	血液がん（T細胞リンパ腫、多発性骨髄 腫、慢性白血病、他）	I	欧米	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)
慢性骨髄性白血病	I	欧米	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)	
C型肝炎	I	欧米	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)	
敗血症 ^{※7}	I	米国	自社 (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発)	

平成29年3月期第2四半期決算発表からの変更点

※7：「オブジーボ点滴静注」は、敗血症を対象としたフェーズⅠ試験を開始しました。

***）：共同研究により創出された化合物を含む**

なお、抗がん剤において、同じ予定効能（がん腫）の場合は、最も進んでいるフェーズ（臨床ステージ）を記載しております。